

香川大学と芝浦工業大学の大学生対流促進事業 「うどん県住みます学生プロジェクト」の実践

Practice of Educational Project by which students lives in Udonken by Kagawa University and Shibaura Institute of Technology

長尾 敦史^{*1}, 松永 貴輝^{*1}, 神田 亮^{*1}, 蘆澤 雄亮^{*2}
 廣瀬 三平^{*2}, 山澤 浩司^{*2}, 古屋 繁^{*2}, 八重樫 理人^{*3}
 Atsushi NAGAO^{*1}, Takateru MATSUNAGA^{*2}, Ryo KANDA^{*1}, Yusuke ASHIZAWA^{*2}
 Sampei HIROSE^{*1}, Koji YAMAZAWA^{*2}, Shigeru FURUYA^{*1}, Rihito YAEGASHI^{*3}

^{*1} 香川大学地域連携・生涯学習センター

^{*1} Center for Regional Collaboration and Lifelong Learning, Kagawa University

^{*2} 芝浦工業大学デザイン工学部

^{*2} College of Engineering and Design, Shibaura Institute of Technology

^{*3} 香川大学創造工学部

^{*3} Faculty of Engineering and Design, Kagawa University

Email: a.nagao@cc.kagawa-u.ac.jp

あらまし：香川大学と芝浦工業大学の大学生対流促進事業「うまげなかがわ感じてみまい！「うどん県住みます学生プロジェクト」」は、香川大学がCOC事業や、COC+事業で整備したローカル教育プログラムを芝浦工業大学に提供するとともに、芝浦工業大学がSGU事業で整備したグローバル教育プログラムを香川大学に提供することで、グローバルを理解したローカル人材、ローカルを理解したグローバル人材を育成することを目的としている。本稿では、本事業の実践について述べる。

キーワード：地域活性化、人口流出、大学生対流促進事業、うどん県住みます学生プロジェクト

1. はじめに

香川大学は芝浦工業大学と共同で、平成30年度地方と東京圏の大学生対流促進事業に応募し、採択された。香川大学と芝浦工業大学の大学生対流促進事業「うまげなかがわを感じてみまい！うどん県住みます学生プロジェクト」⁽¹⁾⁽²⁾（以下、本事業）は、香川大学がCOC事業や、COC+事業で整備したローカル教育プログラムを芝浦工業大学に提供するとともに、芝浦工業大学がSGU事業で整備したグローバル教育プログラムを香川大学に提供することで、「グローバルを理解したローカル人材」、「ローカルを理解したグローバル人材」を育成することを目的としている。本論文では、本事業の実践について述べる。

2. 香川大学のローカル教育プログラム

香川大学は、文部科学省COC事業の採択をうけ、「自治体連携による瀬戸内地域の活性化と地（知）の拠点整備」事業を実施している。この事業では、香川県と7市町村を連携自治体とし、島活性化や街活性化などを通じて地域理解をはかるとともに、瀬戸内地域の活性化を目指すPBL型（Project/Problem based Learning）型教育プログラム「瀬戸内地域活性化プロジェクト」を整備した。平成29年度は、香川県と5市町村と連携し、173名の香川大生が受講した。また香川大学は、文部科学省COC+事業にも採択され、「うどん県で働こうプロジェクト」事業を実施している。この事業では、COC事業の連携自治体

に加え、地域企業の就労体験を通じて地域理解をはかるインターンシップ型教育プログラム「地域インターンシップ」を整備した。連携企業数は70社を超えており、平成29年度は314名の学生が受講した。

香川大学は、PBL型、インターンシップ型教育プログラムを通じて、香川大学の理念である「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する」人材の育成を目指している。

3. 芝浦工業大学のグローバル教育プログラム

芝浦工業大学は、4学部2研究科を有する工科系単科大学であり、学生数は約8600人である。芝浦工業大学は、SGU事業（グローバル化牽引型）に採択され、「価値共創型教育を特徴とする理工学人材育成モデルの構築と世界発展への貢献」を実施している。芝浦工業大学はSGU事業を通じて、海外の学生や企業と一緒に問題解決型のワークショップを展開するPBL型教育プログラム「グローバルPBL」や、海外企業の就労体験を通じてグローバルに活躍する人材育成を目指すインターンシップ型プログラム「国際インターンシップ」を整備した。

芝浦工業大学は、PBL型、インターンシップ型教育プログラムを通じて、グローバルに活躍する「グローバル人材」の育成を目指している。

4. うどん県住みます学生プロジェクト

本事業は、香川大学がCOC事業や、COC+事業で整備したローカル教育プログラムを芝浦工業大学に提供するとともに、芝浦工業大学がSGU事業で整備したグローバル教育プログラムを香川大学に提供することで、グローバルを理解したローカル人材、ローカルを理解したグローバル人材を育成することを目的としている。本事業は、1週間程度の短期プログラムと、2ヶ月～半年の長期プログラムから構成される。平成30年度は、3種類の短期プログラムと2種類の長期プログラム（単位互換型、三者共同研究型）を実施した。以下にその概要を記す。

①香川県で実施した短期プログラム

・「うまげな小豆島を感じてみまい」

本プログラムは、平成30年9月3日から7日までの4泊5日間、香川県小豆島で実施された。芝浦工業大学大生28名、香川大生9名、計37名が参加した。本プログラムには、自治体職員や小豆島へ移住した移住者、小豆島をフィールドに研究されている研究者による講話や、小豆島内にある農村歌舞伎の舞台、150年以上続く醤油蔵の見学だけでなく、中山地区にある棚田での稲刈り体験、神浦地区での地引網体験など、地域理解につながる様々な内容が盛り込まれ実施された。図1、2は、稲刈りと地引網の様子を示している。

②東京圏で実施した短期プログラム

・「2020年東京オリンピック・パラリンピックを疑似体験。オリンピックの〇と×」

本プログラムは、平成31年3月1日から5日までの4泊5日間、芝浦工業大学にて実施された。香



図1 中山地区の棚田での稲刈り



図2 神浦地区の海岸での地引網

川大生12名、芝浦工業大生10名、計22名が参加した。前回の東京オリンピックと2020年東京オリンピックを比較し、実際の現場フィールドワークを通してオリンピックにおけるPBL型フィールドワークに取り組んだ。

・「デジタルアート×照明ワークショップ」

本プログラムは、平成31年3月14日から17日までの3泊4日間、芝浦工業大学にて実施された。香川大生5名、芝浦工業大生16名、タイ・アサンプション大生24名、計45名が参加した。英語を共通語とし、プロジェクトマッピング・動画・グラフィックデザインの技術を用いて、空間をデザインするPBL型フィールドワークに取り組んだ。

③香川県で実施した長期プログラム

長期プログラム（単位互換型）は、平成30年10月から開始され、芝浦工業大生2名が参加した。2名の学生は本学で実施している「瀬戸内地域活性化プロジェクト」にも参加し、地域課題解決を目指した様々な取り組みにも参加した。東かがわ市では、福栄地区にて農業の六次産業化をテーマにした商品づくり、農業イベントの運営、小海地区にて、お遍路小屋づくりのワークショップなどに取り組んだ。丸亀市では、丸亀市や商店街組合の協力のもと、子どもの居場所づくりを考えた子ども食堂の企画運営にも取り組んだ。観音寺市では、地元で行われている祭りに参加し、地域の伝統文化に触れた。

長期プログラム（共同研究型）には、芝浦工業大生1名と芝浦工業大学大学院生1名が参加した。長期プログラム（共同研究型）は、香川県のクラフトマンテック株式会社、香川大学、芝浦工業大学での3者による共同研究の一環としておこなわれ、建設作業従事者の安全意識向上をはかるシステムの研究、およびITを利用し効率的に建設業における技術を学習するシステムの研究に取り組んだ。

5. まとめ

本論文では、本事業の実践について述べた。本事業を高度化するためには、教育プログラムを充実させることはもちろんのこと、生活支援の体制整備が必要不可欠である。現在、学生の自主的な活動を支援する仕組みだけでなく、両大学の教職員の連携を強化する仕組みについても検討している。

参考文献

- (1) 香川大学「うどん県住みます学生プロジェクト」：“うまげなかがわを感じてみまい「うどん県住みます学生プロジェクト」”，香川大学，<https://www.cpp-ao.kagawa-u.ac.jp/> (2019)
- (2) 芝浦工業大学「うどん県住みます学生プロジェクト」：“うまげなかがわを感じてみまい「うどん県住みます学生プロジェクト」”，芝浦工業大学，<https://student-mobility.shibaura-it.ac.jp/> (2019)